

2023年度事業計画

【取組方針】

3年近く続いたコロナ禍もようやく収まり、2023年は観光産業が本格的に復活する年となりそうです。この3年間小豆島観光協会ではアフターコロナを見据え英語ガイド養成、新たな食のコンテンツ造成などいくつかの施策を実行してきました。島の観光窓口一本化により小豆島観光協会の体制も大きく強化されます。2025年の大阪関西万博へ向け、国内外から小豆島へより多くの観光客にお越しいただけるよう、様々な事業を進めてまいります。

1. 観光情報発信

ホームページ、SNS、パンフレットなどを使い、適切でタイムリーな情報を提供します。

2. コンテンツ造成、ツアー販売

小豆島では豊かな山海の自然、醤油、そうめん、オリーブ、佃煮といった特色のある食品産業、島で採れる豊富な野菜・果物や海の幸、お遍路など魅力的なものがたくさんあります。これらを体験コンテンツとして磨き上げ、現地ツアーなどとして提供していきます。

3. フィルム・コミッション事業

撮影に必要な情報を収集・提供し、映画、TVドラマ、CMなどのロケ撮影を積極的に誘致します。

4. 受入環境整備

観光客の利便性を高める観光DXについて検討します。また、小豆島の魅力をきちんと伝えるために、英語ガイドを始めとした様々なガイドの養成を進めていきます。

5. DMO登録申請

今年1月にDMO（観光地域づくり法人）候補法人の申請をし、3月に登録されました。2年以内に正式なDMOへの申請を予定しています。持続可能な観光がますます重視されるなか、観光業だけでなく様々な関連事業者と密接な連携を図り観光振興を進めていきます。

6. 調査事業、観光ビジョン策定

今年度土庄町と小豆島町が共同で観光ビジョンを策定することとなり、小豆島観光協会は事務局として策定に深く関わらせていただきます。合わせて様々な調査を実施します。

7. 勉強会・セミナー実施

会員向けに映像配信、インバウンド対応など、実践的な勉強会やセミナーを開催します。

8. 芸術文化支援

観光客にとって小豆島をより魅力的な島としていくため、多様な芸術文化活動への支援を行います。将来的には小豆島で演劇祭などを開催することを目指します。

9. 広域観光団体との連携

香川県観光協会（入会済）、せとうちDMO（入会済）、四国ツーリズム創造機構（2023年度新規入会）など島外の広域観光団体と連携して小豆島への誘客を推進していきます。

【事業内容】

1. コンテンツ造成、ツアー販売

<継続事業>

- ・観光庁「看板商品」「小豆島あったかグルメ」について昨年度に続き応募し、採択の可否に関わらず事業を継続する。
- ・四国運輸局「小豆島におけるガストロノミーを活用したサステナブルな観光コンテンツ・ツアー造成事業」で昨年度造成した7つの食コンテンツを実際に販売する。
- ・インバウンド向け「迷路のまち」「醬の郷」散策ツアーの磨き上げと販売を行う。

<新規事業>

- ・「教育旅行」「SDGs」に重点を置いてコンテンツを開発し、モニターツアーで磨き上げを行う。教育旅行についてはサポートのための講演やワークショップも行う。
- ・多くの映画ロケ地となったことを活かし「ロケ地巡りツアー」を実施する。
- ・その他木桶醤油やお遍路といった「小豆島でしかできない」ツアーを開発・催行する。

2. 観光情報発信

- ・ホームページを使った積極的な情報発信を行う。SNS（facebook, Instagram, twitter）についてはそれぞれの特性を生かして内容を変えつつ、頻度高く発信を行う。
- ・パンフレットは紙媒体を残すものとPDFにするもの、ウェブに移行するものを取捨選択し、適切な形にして観光客に情報を届ける。
- ・フォトコンテストを開催して小豆島の良さをPRするとともに、魅力的な写真を収集して今後のPR活動に活かす。
- ・神戸みなと祭り（神戸市）、みなと区民祭り（東京都港区）、赤穂義士祭（赤穂市）など、島外のイベントに出展し、小豆島をPRする。
- ・小豆島をPRするためのポスターやグッズを制作し、島のPR映像を撮影・配信する。
- ・土庄港観光案内所（土庄町部会）、オリーブナビにて観光客の案内をする。
- ・東京、大阪などで商談会を実施し、旅行代理店等に小豆島ツアー造成を働きかける。ワークショップを推進し、教育旅行担当者を招聘する（戦略会議部会）

3. フィルム・コミッション事業

- ・弁当・宿泊・交通など具体的な撮影時に提供できるサービスをまとめ、スムーズに撮影ができる環境を整える。専用ホームページや映像アーカイブなどについても検討する。
- ・小豆島で撮影された映画の上映会を行う。

4. 受入環境整備

- ・観光DXとして「このパスを買い、観光施設でスマホを見せれば小豆島どこに行っても楽しめる」というような「小豆島パス」について検討する。
- ・昨年度4名の英語ガイドを養成したのに続き、今年度も追加で養成を行う。
- ・バスガイド、地域ガイド（例：中山）について養成を行う。
- ・小豆島町にて標識看板更新、既存看板・観光ベンチ補修などを行う（小豆島町部会）